

広沢池

(ひろさわいけ)



全景



池畔の桜

ため池の概要

□ため池の所在地

京都府京都市

□ため池の特徴

広沢池は、8世紀頃、洛西地域一帯を秦氏が開墾したときに農業用水とするため、その原形が造られたと伝えられています。

現在の池は、永祚元年(989年)、宇多天皇の孫にあたる寛朝僧正が遍照寺を建立した際に築堤したもので、畔には観音堂、月見堂、鈴殿があったとされています。

築造以来、1000年以上にわたり地域の重要な水源として農業を支えています。

古くから観月の名所として有名で、芭蕉や蕪村、源頼政、後鳥羽法皇など多くの歌人がこの地を訪れ、俳句や短歌が詠まれています。

池の畔には桜、カエデ、ヤナギ類が多く、マガモ、ケリ等の鳥類やトンボ類も多くみられます。市街地近郊に水田地帯の生物相が残っている数少ない地域であり、周辺の小学校の「自然観察教室」や「写生教室」などにも利用されています。

池周辺は「歴史的風土特別保存地区」に指定されており、「稲穂実る風景」を次世代に伝えるため、開発等に関する厳しい制限が課されています。

毎年年末には、池の水を完全に抜いて溜まった土砂を排出し、池底を直射日光にさらし有機物の分解を行う池干しなどが行われています。

関連情報